

すいさん山形

No. 349

令和元年 / 11月号

漁民と手をつなく広報誌

山形県漁業協同組合
広報誌

Fish-1グランプリ

悲願の

Japan Fisherman's Festival 2019 ~全国魚市場&魚河岸まつり~ with



グランプリ受賞!



11月17日に東京日比谷公園において、地元漁師が自信を持って勤める魚として選定された「プライドフィッシュ」を素材にしたコンテスト、その名も「第7回Fish-1グランプリ」が開催されました。当漁協が参戦して今年で4度目、昨年までは2年連続の準グランプリ受賞でしたが、今回ようやく念願のグランプリを獲得することが出来ました。

コンテストには全国から45作品の応募があり、一次審査を通過した選りすぐりの6作品のみが出店できます。それぞれが1,000食を提供した中、当漁協が出品した「庄内浜産 おさしみ鮭とイクラ漬け丼」は一番に完売する人気でした。

本間加工場長は「今が一番おいしい旬の魚、庄内浜の定置網で獲れた鮭で何か作れないかとみんなで知恵を絞って考えた一品だった。4度目の出品でようやくグランプリに選ばれ、錦を飾ることが出来たことは大変喜ばしいことである。より多くの皆さんに美味しい食べ方を知っていただきたいので、県内で提供できるよう準備していきたい。」と語っており今後の展開が大変楽しみです。

今回、御協力を頂きました全漁連をはじめ、関係者の皆様に改めて感謝いたします。

JA庄内みどり 女性大学 第5回「マナビーマイト」 魚料理教室へ行ってきました！



11月13日平田タウンセンターにて庄内みどり女性大学主催第5回「マナビーマイト」魚料理教室が開催され、県漁協女性部長であり庄内浜文化伝道師マイスターの佐藤部長と、同じく副部長で庄内浜文化伝道師の本多副部長のお二人が講師として旬のサケを使った料理教室を行いました。

目玉は8キロの大物、水揚げされたばかりのメス鮭です。佐藤部長が手慣れた手つきでさばいている様子に参加された皆さんが興味深く見ていましたが、その姿

に触発され、各テーブルに置かれた鮭を見よう見まねでさばきはじめる方もおり、さすが現役の主婦！と感心する場面も見られました。さばいた鮭は「親子丼ぶり」、「甘酢和え」、「粕汁」の3品に調理されました。

調理後はみんなで食事会です。丸魚1匹から出来上がった美味しい品々にみなさんからは「おいしい！」と大好評でした。今回は、JA庄内みどり女性部の部長と副部長もいらっしゃっており、同じ食卓を囲んで和やかな時間がすごせたようでした。

今後もこれを第一歩として、農業と漁業の一線で活躍するかあちゃん同士の交流がどんどん広がっていくことを願います。



11月12日に県水産試験場「おいしい魚加工支援ラボ」にて「水産加工販売に向けたサポート研修会」が開催されました。7月に鶴岡市由良コミュニティセンターにて「おいしい魚加工技術レベルアップ研修会」が開催され、衛生管理や原価計算を学んだところですが、更なるステップアップを図るべく開催されたものです。研修会は2部構成で行われ、

**水産加工品
販売に向けた
サポート研修会
Inおいしい魚加工
支援ラボ！**

第1部は「お客様が買いたくなる仕組みについて～商品開発、パッケージ開発の考え方～」を表題に、山形よろず拠点のチーフコーディネーター 尾形氏より、実践的なマーケティングの方法を学びました。

第2部は、昨年2月の研修会で持ち寄っていただいた惣菜から2品を選定し、実際店頭で販売することを想定したアドバイスを頂きました。アドバイザーには庄内浜文化伝道師の資格をもち、バイヤーとしても活躍されている、生協共立社の佐藤氏、(株)山形丸魚の齋藤氏、秋山氏、(株)トー屋の佐藤氏を迎え、実際に試食して頂きながら味付けや惣菜の色味、パッケージングのコツなど様々な視点で講評をいただきました。

女性部員の中には実際に加工品販売を行っている方もいらっっしゃいますが、今後の商品開発や販売に向けて大変参考になる意見を頂いたのではないのでしょうか。今後の女性部の皆さんの活躍に期待が高まります。



山形県漁協女性部

JF全漁連会長賞受賞！！

去る、10月2日に東京・千代田区のホテルグランドアーク半蔵門において「JF全国女性連設立60周年記念式典」が開催され、優良漁協女性部および若手漁村女性の表彰が行われました。

表彰は、水産庁長官賞5団体、農林中央金庫理事長賞5団体、JF全漁連会長賞12団体、東京水産振興会会長賞3名に各賞が授与されました。

県漁協女性部は、昭和61年から「庄内浜海浜クリーン運動及びLGL（ライフガードレディーズ）による救命胴衣着用推進運動」を行っており、庄内浜の環境保全と釣り客のマナー向上に長年努めてきた功績が認められました。

この度の受賞を機に、更なる女性部の発展とご活躍をご祈念いたします。





もっと知りたい、漁業のこと!

子供たちが社会科見学にやってきました!!

7月11日、山形大学附属小学校の5年生98名が社会科見学の一環で酒田海洋センターを訪問し、講師として、当漁協西村参事が出向きました。そこで、酒田港で水揚げされる魚の種類や漁業種などの説明を受けた子供たちは、質問の時間になると我先に手を挙げ、普段疑問に思っていることを沢山質問していました。

9月19日には、酒田市富士見小学校の5年生70名が県漁協へ来訪し、山形県の水産業について学びました。その後、立体冷蔵庫や、製氷工場の内部を見学しましたが、魚の鮮度を保つために極めて低温である立体冷蔵庫内では、職員がぬれたタオルを一瞬で凍らせるパフォーマンスを見せ、子供たちは寒さで悲鳴をあげながらも皆笑顔でおおはしゃぎでした。水揚げされた水産物が食卓に届くまでどのような仕組みなのか、ごく一部ではありますが、まさに身を持って知ることが出来たのではないのでしょうか。

将来を担う子供たちが、一人でも多く漁業や水産物に興味を持ってくれたらとても嬉しいことです。ぜひまた見学に来てくださいね。



加茂水産高校 インターンシップ

加茂水産高校では、本県の漁業者育成のため様々な企画を実施しています。10月は2つの事業を行いました。10月16～18日は、2年生が就業体験学習として由良水産加工工場、協和丸、県漁協念珠関総括支所、滝川蒲鉾店、水産試験場等で短い期間ではありますが職場体験学習を実施し、由良水産加工工場では、塩辛作りの作業を手伝わせて頂きました。

10月23日には県水産振興課主催、仁三郎さんの協力で由良沖の定置網漁業体験を行いました。2年生の12名が、午前と午後に分かれて定置網の引き上げや仕分けを体験させて頂きました。ウミネコがおこぼれをもらいに集まる中、網の中には大きな鮭が数十本、太刀魚、無数のアジ等の大漁で、生徒達は慣れないながらも漁師さんから指導を受けながら一生懸命お仕事をさせて頂きました。このように、多くの方々から支援を頂きながら山形の水産業を担う人材を育てています。

加茂水産高校 教頭 蛸井 朗



子供たちに庄内浜で獲れる魚や漁師の仕事を知って貰いたいと、漁業者が自ら講師となって「見る・触れる・捌く・食べる」を体験させる「出前講座」がスタートして、今回で4回目の開催となります。

「サクランボの里」寒河江市立三泉小学校の3・4年生26名を対象に、念珠関発動機船主会のメンバー12名が、底曳網漁業で獲れた魚を用意しました。

初めて見る魚も多く、「恐る恐る」の子供たちでしたが、ひとりが触れると、又ひとりと、歓声をあげながら次から次へ順番待ちの状態になりました。人気は予想通り、「タコ・イカ・毛ガニ」で、「ヌルヌル・チカチカ」が面白いとのことでした。

「ハタハタの湯揚げ」は子供達に包丁を使わせるので心配な面もありましたが、「優しい浜言葉と、穏やかな笑顔」の船頭衆の手ほどきもあり、無事捌くことが出来ました。

「エビ汁・真鯛の炙り刺身、ハタハタの湯揚げ」の食事は「旨い・美味しい」の歓声が相次ぎ、後からの御礼文にも“今まで食べたエビの中でも一番おいしかった”、“魚は大好きなのでこれからも残さず食べたい”等うれしい言葉が綴られておりました。船主会の皆さんは、参加いただいた保護者の皆さんにもうれしい「紅エビ」のお土産を準備しており、海の男の優しい気配りを感じることが出来ました。

今回も、「庄内浜の“うめえ魚”」を子供達に伝えることが出来たと思います。

念珠関底曳船頭衆の皆さん、ありがとうございました。

庄内総合支庁産業経済部 水産振興課 地域活性化コーディネーター 佐藤 剛

酒田市民表彰 澤口 與四一氏



おめでとうございます!

去る11月1日、令和元年度酒田市顕彰式が催され、飛鳥支所所属の澤口與四一氏が酒田市民表彰を受章しました。酒田市民表彰は広く公共の福祉や市勢の発展に尽力され、功労が特に顕著な個人または団体、市民の模範となる篤行者、市民生活の向上や公的活動に尽力した方を表彰するものです。

澤口氏は飛鳥漁業無線通信士会の会長を務める他、飛鳥遊漁船組合長や飛鳥観光協議会の会長を務め、飛鳥観光産業の第一線で活躍し、誘客の促進を図られました。また若者への飛鳥移住における支援として、とびしま未来協議会や合同会社とびしまの設立運営に尽力され、飛鳥において観光振興を柱として地域振興や若者の育成に大きく貢献しました。

この度は酒田市民表彰の受章、誠にありがとうございました。

漁船リサイクルコーナー

※各種装備充実しております。興味のある方は枠内の連絡先までご連絡ください。



船名	邦栄丸 (長さ9.60m、幅1.95m、深さ0.57m)		
漁業種類	あまだいさし網、かれいさし網、一本つり、はえなわ漁業		
進水年月日	昭和55年5月27日	トン数	2.34トン
主機	FRP製、船内機 ジーゼル87kw ヤンマー(株)4CHK-HT (h22年6月機関換装)		
各種装備	無線 (A3E1W)、魚探、GPS、オートパイロット、揚網機		
造船所	五十嵐造船所 (鶴岡市温海)	その他	付属漁具については要応談
連絡先	山形県漁業協同組合 念珠関総括支所 ☎0235-44-2100		



船名	第八飛龍 (長さ13.36m、幅3.10m、深さ0.98m)		
漁業種類	はえなわ、一本つり漁業		
進水年月日	昭和54年6月 (日付不明)	トン数	9.16トン
主機	FRP製、船内機 ジーゼル405kw いすずマリーン製造(株) (H17年9月機関換装)		
各種装備	無線 (A3E1W)、レーダー、魚探、GPS、発電機、ソナー、オートパイロットクラッチ、E/Gリモコン		
造船所	(株)庄田鉄工所 (静岡県下田市)	その他	付属漁具については要応談
連絡先	山形県漁業協同組合 さかた総合市場 ☎0234-24-5617		

理事会情報

令和元年度 第5回 理事会議案
開催日…令和元年10月25日(金)
場所…本所 第一会議室

【協議事項】

- 1 令和元年度上半期収支状況について
- 2 債権の管理回収について (第2回債権管理委員会の協議を踏まえて)
- 3 理事者の利益相反行為に該当する貸付金の審議について
- 4 貸付金の審議について
- 5 冬期終業時間の一部変更について

【報告事項】

- 1 令和2年度水産産業振興に関する要望書について
- 2 「JFマリンバンク基本方針」に基づく資産精査について
- 3 令和元年9月末貸付金の状況について
- 4 令和元年9月末資金運用状況について
- 5 令和元年9月末余裕金の運用状況について
- 6 信用・経済事業貸倒債権等の回収状況について
- 7 令和元年度栽培漁業実施結果について
- 8 令和元年度指導事業賦課金徴収実績について
- 9 令和元年度第2四半期における販売促進活動について
- 10 令和元年度第2四半期の「庄内海丸」の収支について
- 11 第3回コンプライアンス推進委員会の開催について
- 12 令和元年度内部監査結果について
- 13 組合員の加入・脱退について
- 14 その他 (JF全国代表者集会について)



何でも魚ッチング



南国からの来訪者

今回は、定置網で漁獲された、山形県ではあまり見かけることのない南国の魚についてご紹介します。まずは「ツバメウオ」(写真1)です。熱帯の海に生息していて、体はトランプのスペードを横にしたような形で平たく円盤状で、大きさは1メートルを超えることもあります。次の来訪者は「ギンガメアジ」(写真2)です。実はこの魚は食中毒を引き起こすシガテラ毒を持つ魚として知られています。熱帯地域に生息する魚に多くみられる南方特有の中毒で、毒性を持つプランクトンを食べて、食物連鎖によって毒性を持つとされています。すべての個体がシガテラ毒を持っているとは限りませんが、大型の個体ほど有毒の可能性が高いので、食べるときは覚悟が必要です。恐る恐る職員で試食したところ、肉厚で美味でした。

なぜ南方系の魚が山形で見られるのでしょうか？それは、海流の影響があります。日本海には黒潮の分流(対馬暖流)が流れており、南から北に向かって流れています。これに乗ってやってくる南方系の魚は、本来の生息域とは違う水温や環境に耐えられず、また生息域に戻ることもできず、水温が下がる冬頃に死んでしまうようです。そのため、「死滅回遊魚」あるいは「季節来遊魚」と呼ばれています。今回のツバメウオ、ギンガメアジのように、もしかしたら今後も南方系の魚を見かける機会があるかもしれませんね。その際はぜひ水産試験場にお気軽にお問い合わせください。

浅海増殖部 齋藤 祥司



写真1 ツバメウオ

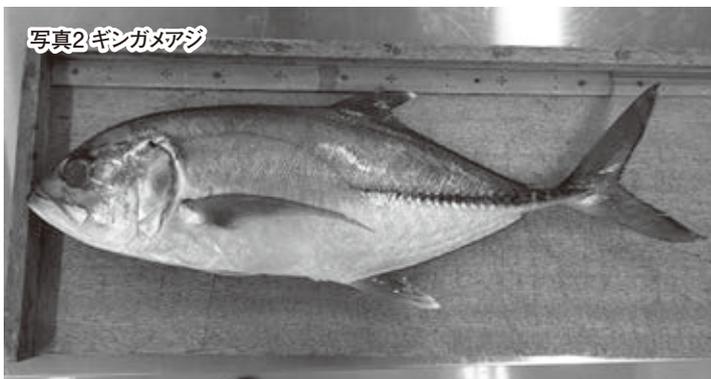


写真2 ギンガメアジ



第28回 全国漁船保険 推進のつどい



向かって左より伊原理事と西村参事

令和元年11月6日、東京都目黒区のホテル雅叙園東京で、「第28回全国漁船保険推進のつどい」が開催され、全国の漁業協同組合の役員と保険組合の役員が出席しました。式典では、はじめに日本漁船保険組合 三宅哲夫会長が「全国の組織が統合一元化して2年半を経過した。この間組織運営が効率化され、業績は向上しているが、加入組合員・加入漁船ともに減少傾向が続いており、厳しい状況である。漁船事故については、組合として事故防止対策に力を入れてきたことで、事故件数・事故割合ともに減少している。今後も事故防止対策に全力をつくしていくとともに、引き続き保険事業へのご理解と加入促進にご協力をお願い致します」と挨拶され、次いで、同組合顧問の大島理森衆議院議長が挨拶されました。また、来賓として山口英彰水産庁長官と白須敏朗日本水産会会長が祝辞を述べられました。続いて同組合佐藤由信専務が漁船保険の現況を報告した後、優良漁協などに対する日本漁船保険組合会長特別表彰が行われました。本県からは、山形県漁業協同組合の伊原光臣理事と西村盛参事が出席され、三宅会長より感謝状が贈られました。

漁船保険事業に対する長年のご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともご支援・ご指導をお願いいたします。

JF共済 全国的に自然災害が多発!! 「いえの補償」は万全ですか??

生活総合共済

くらし



Point

1

風・ひょう・雪災による支払要件の拡充

これまでは…20万円以上の損害でお支払い

➡ これからは… **3万円以上の損害でお支払い!**

例えば…雪災による雨樋の破損、強風による外壁等の破損、強風によるアンテナの倒壊、強風によるベランダ屋根の破損 など

Point

2

水害による支払共済金を拡充

安心の全額補償へ 全損時の縮小割合(70%)を撤廃し、損害の額に応じたお支払い! 損害割合30%または、床上浸水した場合

これまでは… 共済金額の70% ➡ これからは… **損害の額の100%(全額)をお支払いします!**

※付保割合が①住宅用建物で60%、②一般物件では80%以上の場合であること。
※加入共済金額を上限として損害の額をお支払いします。

Point

3

地震による損害の支払共済金を拡充

全損時は30%、半損は新たに2項目に!

これまでは…全損で共済金額の25% これまでは…半損で共済金額の10%

➡ これからは… **全損時の支払いを30%に引き上げ!** **大半損で共済金額の20%をお支払い** **小半損で共済金額の10%をお支払い**

※一部損については今までどおり3%をお支払いします。

上記の補償内容は平成29年7月1日以降、ご加入された契約が対象となります。平成29年6月30日以前にご加入された契約につきましては、旧制度での補償内容となりますのでご注意ください。

上記の記載は、生活総合共済(くらし)の概要を説明したものです。詳しくは山形県漁業協同組合本所・各支所もしくは、JF共済連東北事業本部山形支店(Tel: 0234-22-0021)へお尋ね下さい。

ご契約の際は「重要事項説明書」及び、「ご契約のしおり」を必ずお読み下さい。

海と渚通信



7月に実施しました「海の羽根」募金活動にご協力いただき大変ありがとうございました。10月11日現在の募金結果は、おかげさまで758,501円となりました。この募金を活用し、清掃活動を行っていただいた団体に助成させていただきます。

豊かな山形県の海を守るため、引き続き皆様からのご協力をよろしくお願いいたします。

未来につなげよう
青い海と美しい渚

お問い合わせ先
庄内総合支庁 水産振興課内
山形県海と渚環境美化推進協会
事務局 担当: 池田
TEL 0234-24-6041

水 揚 情 報

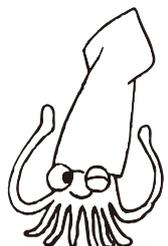
令和元年10月31日現在

(単位：千円)

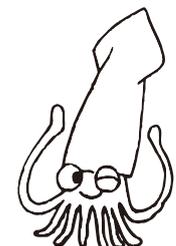
区分	支所別	水揚合計	水 揚 地 内 訳							
			吹 浦	飛 島	酒 田	加 茂	由 良	豊 浦	温 海	念珠関
9月末迄水揚累計		1,250,633	50,984	39,701	631,830	80,727	119,018	81,528	24,265	222,580
月間水揚	県内船水揚	232,333	9,111	2,420	74,600	13,103	37,858	23,822	3,563	67,856
	県外船水揚	210,889	0	0	210,889	0	0	0	0	0
	合 計	443,222	9,111	2,420	285,489	13,103	37,858	23,822	3,563	67,856
前年同月水揚		402,346	9,591	3,217	252,063	13,096	32,013	20,442	5,425	66,499
本年度水揚	県内船水揚	1,130,410	60,095	42,121	372,447	93,830	156,503	105,350	27,828	272,236
	県外船水揚	563,445	0	0	544,872	0	373	0	0	18,200
	合 計	1,693,855	60,095	42,121	917,319	93,830	156,876	105,350	27,828	290,436
前年度水揚累計		1,745,289	53,735	50,661	969,698	102,878	150,732	99,555	28,566	289,464
増 減		-51,434	6,360	-8,540	-52,379	-9,048	6,144	5,795	-738	972
本年度水揚計画		2,720,000	95,500	79,000	1,428,000	128,000	278,000	166,000	41,500	504,000
達 成 率		62.2%	62.9%	53.3%	64.2%	73.3%	56.4%	63.4%	67.0%	57.6%

今あがっている魚 - 10月のベストテン - 前年対比 増↗減↘変らず→

水 揚 金 額 (千円)			魚 獲 量 (kg)		
1	するめいか	255,483 ↗		1	するめいか
2	はたはた	37,995 ↗	2	はたはた	94,189 ↗
3	た ら	20,511 ↗	3	た ら	55,833 ↗
4	さ け	19,256 ↗	4	ほ っ け	54,222 ↗
5	た い	18,089 ↘	5	べにずわい	43,080 ↘
6	ずわいがに	13,122 ↘	6	さ け	35,658 ↗
7	ほっこくあかえび	11,747 ↘	7	た い	26,277 ↘
8	さ わ ら	10,425 ↘	8	さ わ ら	9,424 ↘
9	女 か に	8,498 ↗	9	ほっこくあかえび	9,298 ↘
10	べにずわい	6,031 ↘	10	ざ ざ え	9,013 ↗



月間MVP



月間MVP

◆10月12日に日本へ上陸し、各地で甚大な被害を引き起こした台風19号。本県の沿岸部では大きな被害はありませんでしたが、内陸部では一部の河川で氾濫危険水位を超え、土砂災害や洪水の危険があるとして避難指示・避難勧告が発令されました。前号の編集後記にもありましたが、今年はとても自然災害が多い年になっております。度重なる大型の台風や大雨、地震によって被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。◆今月号は、新しく生まれ変わった山形県漁業試験調査船「最上丸」について取り上げております。今回で5代目となり、効率のかつ安全に複数の漁業試験が同時に行えるよう、先代よりも船体が13m長く、重さも約2倍と大型化されました。すでに運用が始まっており、これからの漁業にとって必要となる情報を沢山提供して頂けることを期待します。◆嬉しいニュースが飛び込んできました。表紙でも紹介しておりますが、11月17日に東京の日比谷公園で行われた「第7回Fisheryグランプリ」のブライドフィッシュ料理コンテストにて、当組合が出品した「庄内浜産おさしみ鮭とイクラ漬け丼」がグランプリを獲得致しました。前回、前々回とあと一歩のところまで手に届かなかった「頂」に、ついに到達しました。今回会場で食べていただいた方の中には、山形県で鮭が獲れる事すら知らなかったという方もいたかもしれません。これを機に、鮭以外にも山形県で獲れる美味しい魚がより多くの方に食べて頂けるようになって欲しいと思います。◆「おいしい山形」はこれからも皆様に鮮度の高い浜の情報をより多くお届けできるように、編集委員一丸となって紙面づくりに取り組んでまいります。皆様からの「意見・情報・要望」などありましたら、是非ご提供ください。よろしくお願いいたします。



管理課 小林 舞

漁業試験調査船

第5代 最上丸



竣工式

令和元年10月21日、酒田港水産第一岸壁において水産試験場の漁業試験調査船第5代「最上丸」の竣工式が執り行われ、吉村県知事や漁業関係者を中心に、県内外から多くの方に参加いただきました。

第5代目となる最上丸は、漁業の効率化や漁獲物の付加価値向上など本県漁業の成長産業化を進めるとともに、魚種の変動などの将来的な漁業情勢の変化に対応するため建造されました。

ご存じの通り、本県の漁業は底びき網漁業、いか釣り漁業、はえ縄漁業など、多種多様であることから、水産試験場にも様々な調査要望があります。しかし旧船では、操業の種類にあわせて漁撈装備を切り替える必要があり、これがかなりの時間のロスとなり、調査時期を逸したこともありました。そこで新船は、船体を大型化し、装備を全て搭載することで、この問題の解決を図っています。同時に、多少荒れていても出航できるというメリットもあります。

また、新規漁場の開拓や、漁獲物の高付加価値化などにも役立つ最新機器が搭載されています。(例…計量魚群探査装置、自走式水中テレビ、低温活魚水槽、など)これらを駆使した調査研究も、新最上丸の大きな特徴です。

さらに、船体の大型化や居住設備の充実により、24時間以内の航海であれば最大40名の乗船が可能になりました。漁業研修や乗船体験航海、災害時の救援物資の運搬など、試験研究以外にも幅広く活用できる船となっています。

県の漁業試験調査船として、今後も組合員の皆様のご要望に応えられるよう尽力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

山形県水産試験場 研究員 太田 稔章